



# CIVIC FORCE

## NEWS LETTER Vol.19

ニュースレター (Dec, 2019)



台風 19号はリンゴの収穫を目前に控えた農地をも襲いました。写真は泥の中から顔を出したサフランの花。片付け作業に追われる被災者やボランティアの表情をばっと明るくしてくれました(長野県長野市)。(撮影: 荻野未帆=JOCA)



### 2019年 頻発する自然災害

#### 【台風 19号】ご寄付受付中!

■クレジットカード・電子マネー  
<https://bokinchan3.com/civicforce/donation/bokin/page1.php>

■三井住友銀行 青山支店  
普通 7027403

■ゆうちょ銀行 00140-6-361805  
公益社団法人 Civic Force  
シャ) シビックフォース

※通信欄に、「台風 19号」とご記入ください。  
なお、ご寄付のうち 15%は運営費として活用させていただきます。

2019年も残すところ、あとわずかとなりました。

「災」(「今年の漢字®」日本漢字能力検定)と表現された2018年に続き、今年もまた度重なる大きな自然災害が私たちの日常を襲いました。8月の九州北部豪雨、9月の台風15号、そして10月の台風19号、21号…。激甚災害および非常災害に指定された台風19号の被害は、死者・行方不明者99人、倒壊・浸水などの住宅被害31都府県91,000棟以上に及びます(12月2日時点、内閣府)。避難所で生活する人の数はピーク時に比べ徐々に減っていますが、「プライバシーがない」などの理由で浸水した自宅の2階などで生活する“在宅避難者”は相当数います。しかし、その数や生活の実態は把握されておらず、具体的な支援策はまだ十分ではありません。

台風は地震と違い、ある程度の予測が可能です。それでも今回の台風被害は広範囲に及び、各地でさまざまな混乱が生まれました。

Civic Forceは、発災前からパートナー団体と緊急支援チームを結成し、情報収集を開始。発災翌日には、ヘリや航空機などで上空から被害状況を確認し、まず長野市内の病院に取り残されていた患者らを近隣病院に搬送するミッションに貢献しました。同時に長野県や福島県の避難所などをまわり、必要な物資を調達・配送。企業52社(12月10日時点)が加盟する緊急災害対応アライアンス「SEMA」との連携をはじめ、企業やNPOのネットワークを通じて刻一刻と変わるニーズに対応しています。

今号のニュースレターでは、台風19号から約2カ月の緊急支援活動を振り返るとともに、今年から新たに開始した東北支援事業についてご報告します。

発行日: 2019年12月  
発行: 公益社団法人 Civic Force  
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12  
富ヶ谷小川ビル 2階  
TEL: 03-5790-9366  
e-mail: info@civic-force.org  
URL: <http://www.civic-force.org>

## 被災地 を 支援する

日本各地で発生する災害時の緊急支援活動や被災地の復旧・復興に向けた取り組みについてお知らせします。

### 台風 19号

#### 「発災直後の一番大変な ときに来てくれた」

「浸水と停電で病院孤立、救助要請あり」

台風 19 号の発災前から情報収集を開始していた緊急合同支援チーム(Civic Force / A-PAD ジャパン / PWJ)は、長野市内の病院で患者が取り残されているとの情報を受けて、10月13日朝、佐賀や広島などから専用航空機1機とヘリコプター2機、車両3台で被災地へ向けて出発。同日中に千曲川周辺に到着し、床上浸水した長野県立総合リハビリテーションセンターと賛育会クリニックの患者らを近隣の医療機関へ搬送しました。

長野県 DMAT (災害派遣医療チーム) や自衛隊などと協力して実施したこの緊急ミッションによる搬送患者は270人以上。チームからは医師・看護師ら13人が、約5日間、搬送患者の体調確認や受入病院への引き継ぎ、車両による搬送などを担ったほか、院内の清掃なども行いました。

総合リハビリテーションセンター総務課長の新井宣男さんは「発災直後の一番大変な時期に来てくれたことが今も励みになっている。まだ元どおりの状態に戻れていないが、復旧に向けてなんとかがんばっている」と話してくれました。

#### 長野県と福島県の避難所などで 緊急支援物資を配布

豪雨により自宅を追われ避難所などでの生活を強いられている人は、最も多い時には13都県で約4,500人。このうち半数は福島県と長野県の被災者です。緊急支援チームは、医療支援と並行して、長野市や小布施町、須坂市などの避難所など10カ所以上で、防寒着や肌着などの衣料品、ウェットティッシュなどの衛生用品、水・食糧など必要とされる物資を順次送り届けました。また、断水が続く福島県南相馬市でも給水袋を届けるなどニーズに応じた支援を実施しました。

#### 停電の医療施設に機材を貸与

さらに、停電した医療施設に発電機やランタンなどを貸し出し、約1カ月間活用されました。また、長野県小布施町の社会福祉協議会に高圧洗浄機5台を貸与し清掃に活用されました。また、11月に地域の子どもたちのスポーツイベントを予定していた長野市長沼小学校体育館に清掃用のモップとワックスをお届けしました。



## 復旧に不可欠なプロのサポートー NPO パートナー協働事業

「家も農地も泥にのまれてしまった」「自分たちだけではとても片付けられない」—そんな被災者の声に応えようと全国から多くのボランティアが被災地に駆けつけています。他方、さまざまなスキルや思いをもつボランティアを、被災者のニーズにあった形で迅速かつ効率的に派遣するには、専門の知識や経験を有する組織や人材によるサポートが不可欠です。Civic Force は 2019 年 11 月現在、5 県で活動する 5 団体と連携し、被災地の 1 日も早い復旧を後押ししています。今後は被災地の中長期的な復興を担う地元組織へのサポートも計画しています。

### 三陸ひとつなぎ自然学校



### 東日本大震災の経験・ネットワークを生かして

東日本大震災以降、岩手県釜石市を拠点に地域の復旧・復興を支えてきた三陸ひとつなぎ自然学校は、10月13日から活動拠点近くの鶴住居川流域周辺で泥出しや流木の除去を開始。10月末からは釜石市ボランティアセンターと連携して各地に点在する市内の被災地へボランティアを派遣しています。また、風呂やトイレなどの設備を有する宿泊施設・さんつなハウスを解放し、全国の災害復旧ボランティアに無償で提供しています。

### 被災地 NGO 協働センター

### 「おたがいさま・バス」—近隣から効率的に被災地へ

阪神・淡路大震災以降、各地の国内災害に対応してきた被災地 NGO 協働センターは、台風 19 号の被災地へ、近隣から効率的にボランティアを派遣する「おたがいさま・バス」の運行を続けています。11 月は「新潟県長岡市→栃木市」、「長野県諏訪郡原村→長野市穂保」の 2 便が運行。栃木市では宅地にたまった石や藁を取り出す作業を、長野ではリンゴ園の泥だしなどの活動を行い、合わせて約 60 人が参加しました。



### 青年海外協力協会 (JOCA)

### 長野市北部ボランティアセンターの運営支援



長野県に本部を置く青年海外協力協会 (JOCA) は、県社会福祉協議会の要請を受けて 10 月 17 日から職員を被災地に派遣。長野市北部ボランティアセンター (VC) が運営する 5 サテライトのうち、特に被害の大きかった穂保地区 VC の運営支援のため、連日訪れるボランティアの受付や地域住民のニーズとのマッチングなどを担っています。Civic Force は、運営費の一部をはじめ、ニーズ調査を効率的に行うための自転車導入費用などをサポートしています。

### 災害支援団 Gorilla

### 「食」を通じて茨城と福島に被災地に笑顔を

2018 年の西日本豪雨をきっかけに発足した災害支援団 Grilla は、台風 19 号の被害を受けた茨城県常陸太田市と福島県いわき市で炊き出しやカフェを実施。岡山県や佐賀県の豪雨被災地での経験を生かして、避難所内外で被災者が安心して「食」を楽しめる環境を提供しています。また、近い将来、避難所が閉鎖した後も地域の人々が集い交流しあえる場を生み出し、地域の人々が主体的に運営していけるようサポートしています。



### 相馬救援隊

### 断水・浸水の被災地で馬たちをケア



福島県相馬双葉地方の歴史・文化的なシンボルである「馬」をテーマに活動する相馬救援隊。台風 19 号とその後の大雨の影響で、同地域ではダムからの水を通す導水管が破損し浜通りを中心に最大 2 万 3,000 世帯に断水の影響が及びました。相馬救援隊は、浸水被害にあった馬たちの体調管理や獣医への引き継ぎなどを行ったほか、飲料水や給水袋などの緊急支援物資を全国に呼びかけて調達し、ニーズに合わせて配送しました。

## 「皆さんの支援が前に進む力になりました」 ～岡山・真備からのメッセージ

2018年7月から続けてきた西日本豪雨「NPOパートナー協働事業」が、2019年10月末で終了しました。岡山・広島・愛媛県で活動する7団体と8つのプロジェクトを通じて、被災地の復旧や被災地発の復興まちづくりなどに貢献しました。他方、甚大な浸水被害にあった街が元に戻るにはまだ長い時間が必要です。復旧・復興に向けて今も走り続ける皆さんの今を伝えるメッセージの一部をご紹介します。

### 「真備のビールをお楽しみに」

—多田伸志さん(岡山マインド「こころ」)

心の病を抱えた利用者の就労支援やグループホームの運営などを続けてきました。豪雨で施設の多くを失いましたが、皆様のご支援により浸水した作業所は修繕し、来年には就労拠点である製麦プラントも復活予定です。皆さんに早く真備産の大麦からつくる本物の地ビールを飲んでもらいたいです。

月1回の音楽イベントは1年で述べ3,200人が集まり地域交流の場となっています。真備町内20ほどの福祉・医療機関・事業所などの有志をつなぐ一般社団法人お互いさま・まびラボも発足しました。あのときの教訓を伝えるため、近い将来、本を出版予定。各地の被災地で役立ててもらいたいです。



### 「『地域で生きる』を支える看護」

—片岡奈津子さん(そーる訪問看護ステーション)

「地域で生きること」に重点をおいた訪問看護を続けてきましたが、豪雨で事務所もスタッフの家も被災。街全体が水に浸かり、一時は利用者も激減してしまいましたが、皆様のおかげでなんとか利用者へのサービスはもとに戻りつつあります。

地域のために続けてきた週末カフェには、今もたくさんの地域住民の皆さんが集まり楽しい交流の場となっています。Civic Forceとの連携事業では、東日本大震災ほか各地で、復興まちづくりや看護の専門分野に関する学びの機会を得られ、次に踏み出す力になっています。今後は、地域で“看取り”ができる環境整備にさらに力を入れていきます。



## 【西日本豪雨】【北海道地震】ご寄付のお礼とご報告

Civic Forceは、2018年7月に発生した西日本豪雨および同年9月に発生した北海道胆振東部地震の支援活動専用口座の受付を8月末で終了しました。皆様から寄せられた支援金は、西日本豪雨の支援活動に約6,660万円、北海道地震の支援活動に約2,392万円です。法人・個人の皆様の多大なるご支援に感謝申し上げます。

7団体との「NPOパートナー協働事業」は終了しましたが、被災した地域の復興に向けた取り組みは、これからが正念場です。災害が頻発する昨今、地域のつながりやそれぞれの得意分野を生かしながら、中長期的な視点で各々の土地に根付いた活動を続ける地域NPOを、これからも応援してください！！

- 【西日本】(特活)そーる訪問看護ステーション：<http://nposoul.com/>  
(特活)被災地NGO協働センター：<http://ngo-kyodo.org/>  
(特活)リエラ(旧ひちくボランティアセンター)：<https://www.facebook.com/rearea.oita/>  
(特活)九州キリスト災害支援センター：<https://kyusyuchristdrc.wixsite.com/kumamoto>  
(特活)岡山マインド「こころ」：<http://mindkokoro.web.fc2.com/>  
(特活)だっぴ：<http://dappi-okayama.com/>  
(特活)Arts and Sports for Everyone：<https://ase-2016.org/index.html>
- 【北海道】(特活)いぶり自然学校：<http://iburi-nature.com/index.html>  
(特活)ezorock：<https://www.ezorock.org/>

## 過疎、高齢化、原発事故・・・ 地域の課題にもう一度向き合う復興支援

2011年3月11日の東日本大震災から8年以上が経ち、被災した多くの地域では復旧・復興の動きが着実に進んでいます。一方、時間が経ったからこそ見えてきた課題や新たな問題も浮上しています。震災後に拍車がかかった過疎化・高齢化、増える孤独死や孤立、そして避難指示解除後も帰還が進まない福島の一部の地域では荒廃した街の再建が大きな課題となっています。統計上の数字では見えてこない膨大な自主避難者への支援や子どもたちの“保養”のニーズも減ってはいません。

Civic Force は、2019年からこれまで続けてきた「東日本大震災支援事業・夢を応援プロジェクト」と「NPO パートナー協働事業」を掛け合わせ、現在の課題・ニーズに沿った新たな支援事業を始めています。パートナー団体の活動の一部をご紹介します。

### 宮城

#### 石巻復興支援ネットワーク

#### 「やっぺす！」ママたちが挑むまちづくり

東日本大震災で死者・行方不明者 3,600 人に及ぶ甚大な被害を受けた宮城県石巻市は、震災後の人口流出が深刻で、特に子育て世代が急減。地域衰退の大きな原因となっています。

「やっぺす（一緒にやろう）！」を合言葉に、地域コミュニティの継続と発展を支えてきた石巻復興支援ネットワーク。石巻市の母親らが中心となって、子育て支援や人材育成、仮設住宅や復興公営住宅でのコミュニティ支援などの活動を続けてきました。

Civic Force との NPO パートナー協働事業では、被災地への支援が減る中、当団体がこれまで培ってきた企業や NPO などとのネットワークを生かして、子ども食堂の運営や子育て相談会・ワークショップの開催などを支援しています。また、高齢者の孤立化などが課題となっている石巻市内の復興公営住宅で、定期的にサロンやイベントなどを開催し、高齢者が生きがいをもって暮らせるまちづくりにも力を入れています。



### 福島

#### Bridge for Fukushima

#### 復興支える未来の“起業型人材”育成

地震と津波、原発事故…地域によって被害状況が異なり時間とともに複雑さが増している福島の復興。Bridge for Fukushima は「復興の過程にかかわりたい」と願う福島の高校生や大学生らを対象に実践的な人材育成事業を続けてきました。

Civic Force とのパートナー協働事業では、高校生インターンシップや様々な職業の社会人との共同合宿、プロジェクト・プランニング教室、高校生・大学生交流研修など 7 つのプログラムを通じて、問題解決能力やリーダーシップの力を育てます。そして近い将来、プログラムに参加した学生たちが、福島の復興をはじめさまざまな社会課題を解決していける“起業型人材”に育っていくことを期待しています。



#### 【夢を応援プロジェクト】

#### 「今までありがとう！！」

#### —最終活動報告書



Civic Force の東日本大震災・中長期復興支援事業では、2013年3月から2019年3月末まで、岩手・宮城・福島県の学生を応援する「夢を応援プロジェクト」を実施しました。

夢を応援プロジェクトでは、東日本大震災によって経済状況が急変または悪化し、就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまでの最長 7 年間、月 3 万円の奨学金を給付。同時に夏休みなどを利用した教育研修や交流プログラムなども実施しました。

最新の報告書でこれまでの取り組みや奨学生・卒業生からのメッセージ、収支報告、奨学生の状況、協力企業などの情報を掲載しています。ぜひご一読ください。

<https://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/choki/children/>

## アジア に 展開する

日本の災害の経験から何を学び、何を共有するのか。災害が頻発するアジア地域において、支援を展開するための即応体制づくりを続けています。

### A-PAD

#### A-PAD スリランカに寄付 モンスーンに備え「ZERO Death キャンペーン」実施

毎年のように集中豪雨やモンスーンに見舞われるスリランカで、2019年5月、大規模な防災会議が開かれました。会場はコロンボにある防災センター。この会議を受け、Civic Forceの姉妹団体アジアパシフィックアライアンス（A-PAD）の現地法人A-PAD スリランカは“ZERO Death キャンペーン”を展開。Civic Forceは活動資金として、クラウドファンディングで募った50万円を寄付しました。

キャンペーンでは、特にモンスーン被害の大きい西部州のカルタラ県で約650世帯、南部州のマタラ県やゴール県では1,750人以上の参加者を得て、災害時に命を落とさないためのワークショップを開催しました。

A-PAD スリランカは、防災センターや地元企業

とともに、ペットボトルとスクールバッグを使った基本的な心肺蘇生法や水中での生存技術を実演。危険をキャッチしたらバッグをつかんですぐに安全な場所へ逃げる“Grab Bag”の重要性も説明しました。会場には企業の責任者らも多数訪れ、社員を守るための対策も伝えられました。また、国や地方自治体、軍の関係者や民間ボランティアも参加し、道行く人々に防災に関するステッカーやチラシ、ポスターなどを配布しました。

2019年4月に大規模な同時爆破テロが発生したスリランカでは、夜間外出禁止令が出されるなど緊迫した状況が続いていましたが、A-PAD スリランカは組織や宗教・人種の壁を超えた多角的で実践的な取り組みを続けています。



### 【A-PAD】設立から7年、各国に広がる相互支援の仕組み

Civic Forceをはじめとする日本の災害時連携プラットフォームの経験と仕組みをアジア各地へ広げるため、2012年10月に設立された「アジアパシフィックアライアンス」（本部：東京）。現在、日本、韓国、インドネシア、フィリピン、スリランカ、バングラデシュの6カ国が加盟しています。設立から7年を経た今、災害時に国やセクター

を超えて支援を実践する組織に成長しています。

本部は東京にありますが、各国で順次設立された各国・地域でのA-PAD災害時連携プラットフォームの仕組みは、災害が頻発するアジア各地で有効的に機能しています。詳しくはHP参照。

<http://apadm.org/>



## 緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。

緊急即  
応体制

### 12月で寄付受付終了 -LIFULL ソーシャルファンディング

寄付サイト「LIFULL ソーシャルファンディング」が2020年1月末で閉鎖するのに伴い、Civic Forceは当サイトを通じたご寄付の受付を12月22日で終了します。

クラウドファンディングサイトの先駆けとして、2010年3月にスタートした当サイト(旧Japangiving)を通じ、Civic Forceは総額7億2,760万4,123円(59,941件、12月10日時点)のご寄付を頂戴しました。多くは東日本大震災の災害支援活動に寄せられたものです。これまで本サイトを通じてご支援いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

緊急即  
応体制

### もっと気軽に社会貢献！

#### 《全般》

##### ■ヘッズ

「チャリティハピネスレジ袋」

<https://www.e-heads.co.jp/products/detail2/3219>

##### ■サンナップ(アスクル限定販売)

「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」

<https://www.askul.co.jp/p/P678379/>

##### ■バリューブックス「チャリボン」

<https://www.charibon.jp/partner/cf/>

##### ■本棚お助け隊「古本チャリティ募金」

<https://hondana.biz/second-hand-books-selling-for-charity/charity.html>

##### ■ECナビ「スマイルプロジェクト」

[https://ecnavi.jp/smile\\_project/](https://ecnavi.jp/smile_project/)

#### 《台風19号》

##### ■BEAMS

「たなかみさき チャリティTシャツ」

<https://www.beams.co.jp/item/beamst/t-shirt/71080007591/>

##### ■Yahoo! ネット募金(Tポイント可)

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/3747015/>

##### ■朝日新聞社クラウドファンディングサイト

「A-port」

<https://a-port.asahi.com/projects/civicforce/>

#### 《東日本大震災》

##### ■バリューブックス「ブックスフォー・ジャパン」

<http://www.booksforjapan.jp/action/>

寄付付き商品の購入や読み終わった本・DVDの活用など、様々な支援方法があります。

ご購入1枚毎に1,500円が寄付されます！

求人

### プログラムコーディネーター 募集中(東北)

2019年12月現在、東日本大震災「NPOパートナー協働事業」のプログラムコーディネーターを募集しています。東北地域(主に岩手・宮城・福島の3県)において、地元のNPO等による長期的な復興支援活動のサポートを行っていただきます。詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.civic-force.org/news/news-2110.php>

緊急即  
応体制

### 1日33円から できることがあります

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額(1000円単位)をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行:三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ:00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジンシビックフォース」です)

■クレジットカード:HP「オンライン募金」をクリックしてください。

<https://bokinchan3.com/civicforce/donation/bokin/page1.php>

※ニュースレターのバックナンバーは、

<https://www.civic-force.org/news/newsletter/>からご覧いただけます。





**CIVIC FORCE**